

熊本県菊池市 「地域資源を活かした観光産業の稼ぐ力と強化策」

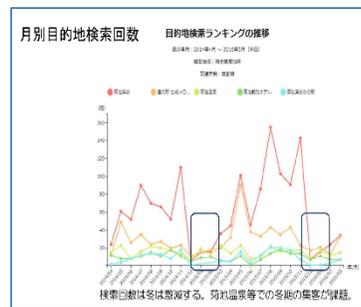
- ・ 菊池市は、熊本県北東部、阿蘇外輪山の西端に位置し、名水・名湯といった「日本百選」が6つもある自然に恵まれた地域で、また、古くより西日本有数の農業地帯でもある。特に観光は重要な産業であり、菊池渓谷や名湯百選の菊池温泉のほか、南北朝時代の一時期、九州を平定した菊池一族の歴史のまちとしても知られている。
- ・ 菊池温泉は名湯百選に選ばれているが、知名度は高くなく、また、旅館が菊池市内に多数存在しているにもかかわらず宿泊者は減少しており、貴重な地域資源が活かせていないのが課題。
- ・ そのような背景を踏まえ、これからの菊池市の観光振興は、これまでの「観光」を支えてきた観光業界の関係者はもとより、菊池で暮らす全ての人々と多様に連携した「市民力」により、健康を軸に、食や文化などの地域資源を磨き、活用し、継承していく取り組みが重要である。
- ・ このような問題意識のもと、行政だけでなく、業界、商工団体、金融機関を交え、今後、菊池市がとるべき施策についてワークショップを実施した。

実施概要

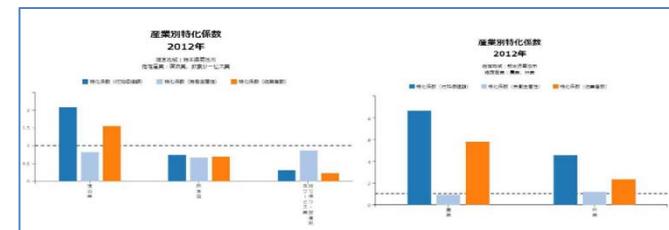
- ・ 日時：平成30年11月14日（水）9:30～11:45
- ・ 会場：菊池市生涯学習センター 2階 大研修室
- ・ テーマ：「地域資源を活かした観光産業の稼ぐ力と強化策」
- ・ 参加者：21名
（菊池市長、副市長、市職員、金融機関、観光協会、商工会、農業協同組合等）
- ・ 有識者：
日本交通公社 観光政策研究部長 山田 雄一氏
グーグル合同会社 観光立国推進部長／内閣官房 クールジャパン地域プロデューサー 陳内 裕樹氏
- ・ 使用したRESASのデータ：
産業構造マップ、地域経済循環マップ、観光マップ等
- ・ その他利用したデータ：
熊本県観光統計表
観光統計調査（菊池市商工観光課）
日本交通公社「JTBF旅行需要調査」

現状分析：菊池市の観光産業の現状と課題

- 菊池市の産業規模は第1次、第2次産業を主体としている一方、付加価値（や雇用者所得）を創造しているのは、公共サービスなどサービス分野である。
- 温泉があり、歴史・文化・自然と観光スポットが豊富である。菊池渓谷は日本名水百選、菊池温泉は日本名湯百選に選ばれるなど、全国的な評価も高い。
- 菊池渓谷については、認知度は低いもののリピート意欲は高い。
- 宿泊者数は減少傾向にあるが、外国人（特にアジア）の宿泊客は増えている。
- 道の駅が目的地検索の上位にランクインしており、菊池の食への需要は高いと考えられる。



目的地検索において、冬期の回数が激減する。菊池温泉等での冬期の集客が課題。



農業における付加価値額は非常に高いものとなっているが、市内の飲食店において全ての特化係数が平均以下である。

施策提案：菊池市の観光産業の稼ぐ力の強化策

- 「おもてなし」による心の充足と「温泉」を活かした体の癒しによる長期滞在型の温泉地を目指し、また、菊池産の食材を活かした「菊池のうまかもん」を発信し、グルメによる観光客の誘致を目指すため、以下の施策を提案。
 - ① 冬季における菊池渓谷の魅力発信や、四季の変化に併せて強みである「食」を活かした定期的なイベントを開催し、時期によらない安定した集客を図る仕組みづくりを構築。
 - ② 温泉を活かし、観光客が菊池に宿泊してもらえる仕組みづくりを構築する。
- 行政だけでなく、関係団体等と一体となって観光産業の活性化について議論していく。



会場の様子



市職員による説明の様子